別添資料１

これまでに出された意見について（論点整理）

区分	番号	意見
紙ごみ	1	子供会、自治会、婦人会に入ってない人が排出可能な古紙（雑がみ）回収に係る周知が必要
	2	住民が古紙回収へ協力すること及び雑がみについて認知向上させることが必要
	3	ごみカレンダーでは紙ごみも可燃ごみで出せるようになっているが、分かりやすいように汚れた紙ごみと表記してはどうか
	4	自治会未加入の家庭にも居住地域の自治会の古紙回収に協力を呼びかける。（売上金、報奨金は自治会に属す。）
	5	大きな封筒は紙質もしっかりしているので、大きな使用済み封筒から小さな封筒を作る。立派な封筒が作れます。またはきれいな柄の使用済み包装紙を、柄側を内側にして、封筒を手作りする。
	6	私が住む城陽市〇〇地区は古紙回収を子ども会が運営しているが、現状は古紙として出されているのは新聞紙、段ボールがほとんどで、雑紙（ざつがみ）を出している家はかなり少数。 「雑紙」とはどんなもので古紙回収にだしても良いものなのか、たぶん知られていない、古紙を出している家庭がすべて雑紙を出すようになれば紙のリサイクル率も上がり、ごみの減量にもつながる。ちなみにうちの家は 2 人家族で 3 週間で約 1 キロの雑紙がたまります。お菓子の箱、レトルト食品の箱、ダイレクトメールなどいろいろです。 「雑紙」の認知を上げるため城南衛生管理組合さんのエコネット城南で雑紙とはどういうものか古紙として回収できるということを以前にも発信されていたかもしれませんが、今一度大々的に宣伝していただきたくお願いいたします。
	7	自治会の古紙回収で、紙ごみを出せる事知らない人が多い。古紙回収で出してよいことを、広報や地域の回覧板で啓発することが大事。残念ながらエコネット城南見ている人が少ないと思う。（持ち手付きの紙袋に入れて出しています。）シュレッダーにかけたごみを古紙回収に出せるのかどうか？
	8	以前弁護士会の名前の入った「チラシ投函不要」のステッカーをもらった事があるが、それを希望者に配布して欲しい。効果…ピザ、不動産求む、高圧洗浄、宗教、廃品回収等々、ポスティングされるチラシが多く、月にかなりの量がたまる。古紙に出せばリサイクルされるとはいうものの、紙資源の使用自体を抑制したい。
	9	ホームセンターなど、ダンボールの回収ボックスが設置されている店舗が多数あるが、そのマップを公開し、利用を呼びかける。効果…町内会、自治会の活動で古紙が集められ、報奨金も出ているようだが、町内会や自治会に入ってない世帯も多くあり、紙資源が可燃ごみとなることを防ぐためには必要な情報である。
	10	学校で配られたプリントの後ろの真っ白部分で漢字の練習や筆算をして紙ゴミを減らす。使い切ったティッシュケースをゴミ袋代わりにして、部屋ごとのゴミ箱をいくつも買わない。
生ごみ	11	コンポスト・生ごみ処理機等の導入補助制度の拡充が必要
	12	野菜の皮や大根やカブの葉など栄養があるけど捨てられることが多いものを有効活用できる情報（栄養があって美味しく食べられること、食べきりレシピなど）がもっと広く周知されるといい
	13	生ごみは、庭・ベランダで乾燥させてから処分しています。野菜の切れ端などは、ほぼ消滅します。
	14	スイカを食べたあとの皮をそのままごみとして捨てるのではなく、必ず日に干して水分を抜いてから捨てます
	15	生ゴミ・剪定した枝や葉・抜いた雑草を一か所に集めて、JA などの精米所で無料でもらってきた米ぬかを入れ込むことで、生ゴミや枝や葉や雑草が発酵し、家庭での園芸や野菜栽培においての無料の有効な肥料として活用しています
	16	毎日使う麦茶などのティーバックはしっかり水を切ってから天日干しにします。剪定した枝・葉は少し乾かしてから出します。スイカの皮はプランターの土の上に皮の方を上

		にして置くと、何日か経つと薄皮一枚になります。
	17	生ごみの水分を減らすため、生ごみ処理機の購入補助も導入してほしい。
	18	お茶葉、コーヒーかす、再生用土、落ち葉等はコンポストを利用しています。
	19	使い切り、食べきりをしっかりやるため、具体的な方法として、冷蔵庫内をチェック（消費期限など注意して必要なものだけを用意する。）、残った食材（野菜など）カレー料理に生かす。また、生ごみコンポストも使用する。
	20	紅茶の葉はポン酢と白ごまで和えて一品として使っている。野菜も効率よく上手に使う工夫している。
	21	野菜、果物の皮、たね等は、庭に埋めてます（米ぬかを少し加えたり）。しばらくすると、土が柔らかくなります。もえるごみの日に出すごみがすごく減ります。各家庭で実行すればごみの量がかなり減ると思います。
	22	生ゴミ処理機はお金がかかるから、野菜くずを畑に埋めています。 今までミミズが少なかったのですが、野菜くずをまくようになってからはミミズが増えました。学校のプリント、紙類は古紙回収に出しています。なかなかな量になります。
	23	基本、大根や人参等、皮ごと食べられる物は皮を剥かず、たわしでこすって調理しています。（よほど汚れていたり、変色している場合はその部分だけ剥きますが...） ４０年以上前から母がそうしていたので、私も皮を剥くという概念が無く、大人になって他のママさんに「皮剥かずに食べてるの？」と驚かれました。他は、キャベツの芯や、白菜の芯も食べてます。皮のゴミも出ないし、少しはエコになってるのかな？
プラごみ	24	「プラごみの分別」 洗って乾かしたり、紙のシールを剥がしたり、プラ以外の部分を切り離したりしてプラごみに捨てられるものはプラごみに捨てる。
	25	「プラマーク汚れていたらもえるゴミ」 プラマークの分別に頭を痛めますが、家族にもわかるようにごみ箱のふたに貼り、基本にしている。
周知啓発	26	住民がごみを排出するにあたり分別意識を向上させる広報が必要
	27	環境美化について教育の機会を増やすため、出前講座の開催が必要
	28	ごみ排出時の分別を徹底させるために、市町と組合が協働して大々的に広報すべき
	29	企業による製品回収や集会所やスーパーでの情報発信強化が必要
	30	市町で分別方法が異なるため、この機会に統一して周知をやりやすくしてはどうか
	31	ごみ分別、減量について住民参加型の周知活動が必要
	32	分別ができていないごみ袋は回収しないなど厳しい対応も必要
	33	間違った分別で排出されている事例を啓発すべき
	34	第１回推進会議で紹介されたアムステルダムで取り組まれている１０Ｒも先進事例として取り入れるべき
	35	布おむつの使用奨励、子供服のお下がり、市町規模のリサイクルシステム構築
	36	リサイクル率向上をごみ減量の目標の一つとしてはどうか
	37	小型家電が公民館で回収されていることを知り今まで迷わず燃えないゴミに出していた小型家電をゴミにせず回収ボックスに持って行った。知らなくて燃えないゴミにだしているひとも多いんじゃないかと思う。もっと周知できるように広報だけでなく集会所の掲示板やスーパーなどに掲示するとかするといいかと思う
	38	よしずのスダレはなぜもえないゴミなのかわかりません。（周知が行き届いていない）
	39	【要望】ごみを減らすには何といっても私たち一人ひとりのごみを減らそうという意識が大事です。そこで管理組合様による出前講座をお願いしたいです。 【内容】 １．テーマ：ごみを減らすことの大切さ ２．場所：各町内にある集会所 説明会（セミナー）を開催していただけないでしょうか。
	40	選挙の投票日になると、同報系のスピーカー、広報車など様々な方法で投票が呼び掛けられるが、それと同じレベルでごみの分別を毎日呼び掛けてはどうか。効果…広報紙を

		読まない人にも分別の必要性、重要性を伝えることができる。
	41	ごみの分別をきちんとする。できるだけ水筒やマイボトルを持参する。
減量各種アイデア	42	「資源ごみの分別」 ネットで服を買った時についている大きめの紙袋に資源ごみをいれ、買い物の際に近くにある資源回収ステーションに持ち込む。また、最近は気温が上がり、生ごみの処理が大変になってきたので、使い古しのジップロックに生ごみを入れゴミ出しの朝まで冷凍庫に保存しておくという取組も行っている。
	43	アルミ缶のみの回収日を作り、回収後リサイクル業者に持っていって欲しい。現在、私は町内会で集めている日に出しています。集めたアルミ缶はリサイクルされ現金化され、お金は子供会費になっています。その日に出してない人はごみ収集の缶の日に出しています。いつも町内会で出したら良いのにと思っているのですが月一の回収だしみんな手間なのかな？と思うので仕方ないと思っているのですが換金目当てでアルミ缶などを持って行く車を度々見かけます。 正直知らない人のお金になるぐらいなら市で回収し費用は市に入ると財政も少し良くなるし、リサイクルされ環境にもいいのかと思います。
	44	子供服はお下がりで貰ったり、譲ったりしています。
	45	オムツは紙オムツではなく布おむつを使用しています。
	46	先日初めておもちゃのかえっこバザールに参加し、お手伝いなどしてポイントを貯め、おもちゃを見てみるとまだまだ使えるおもちゃ達と交換し、子供が外出にも持って行ったりめちゃくちゃ使用しています。持って行ったおもちゃも帰宅時にはなくなっており誰かが貰ってくれたのがすごく嬉しかったです。家に帰宅後、おもちゃを減らすのを嫌がってた子でしたが次の持ち主に行く事が分かったので手放してくれるようになりました。もう少し認知されてもいい活動です。
	47	かえっこバザール同様に子供服の交換会も期間限定でもいいのでしてほしい。例えば 10 時から 11 時までお洋服回収。12 時から交換会開始。余った服は古紙回収に。
	48	一度使ったティッシュのごみだけのゴミ箱を作り再利用で食後のお皿の汚れを拭き取ったり、フライパンの油汚れを拭き取ってから洗うようにしています。また、流し口のゴミを拭き取ったり、お風呂場の排水溝の汚れを拭き取ったりして再利用しています。
	49	ごみ処理に係る経費を具体的に示し、減量することで節約できる経費で、医療福祉、教育など市民生活を豊かにする分野にこれだけのお金を回すことができ、具体的にこんなことができると示す。
	50	断捨離で不要になった物品を市町村規模でリサイクル、格安販売してもらえるシステムを充実させる。（不用品を個人搬入できたり、いつでも購入できたりするフリマ施設のようなものがあれば楽しい）
	51	学校の学習補助品（習字の道具、ピアニカ、リコーダーなどの楽器、理科実験道具）など共有して使えるように検討する。（個人購入の負担も期限される）
	52	売り手の責任を高める。 ユニクロやニトリなどは不要になったものを企業単位として回収している。せめて売ったものは回収してリサイクルできる方法を確立させてほしい。特に、電気製品、布団などは捨てるのにも抵抗があり半永久的に修理、補修して使えるような製品を企業に作ってほしい。
	53	過剰包装はしない、プラスチック製品での包装を極力控えるなど製造会社に求める。（プラスチック製品での包装を極力減らすのは製造時にしないと個人ではできない）
	54	それ自体がごみである菓子袋や衣類の包装紙をごみ袋の代用で使用している。
	55	樹木の剪定くずをこの夏の乾燥対策として土の上に敷いている。
	56	着れなくなった服などを宇治市役所に持って行ったり、お母さんが、はかなくなったズボンで、カバンを作ったりしています。
	57	子供の小さくなったジャージやズボンを切って、寝るときなどに、足につけて足が冷えないようにしています。

	58	「子供用品のリユース」 ・教育機関を活用した子供用品全般のリユース事業 ・子供用品が必要な時に新品を購入するというのも一つの方法だが、おさがりを活用することがごみ減量の一つとして検討できる。 ・おさがりに抵抗がある人も多いが、子供に対してリユースについて教育すれば、親の意識も変わっていく可能性がある。 ・教育機関が主体となって交換できる場を提供できれば、フリマ等にわざわざ出かけることなくリユース品を探すことが可能。
	59	「家具や衣服のリペア」 ・壊れているものを直すということがリペアと思われがちだが、ビジネスとしては成り立ちにくい。 ・リペアのメリットは材料費が安く済む。余った予算で新たな付加価値をつけて販売することができる。 ・家具の場合でも、足にクッションをつける等付加価値をつけて販売することが可能。 ・宇治であれば廃棄される宇治茶の使用済茶葉を、せっけんの香り付けに活用する等。
	60	「リセールの行政支援」 ・フリマ出店経験からリセールに着目。 ・フリマ出店した際出店料が必要となるが利益が少なくなるため、学生が求めているのは、行政が場所提供、出店料補助、什器貸出をやってもらえればさらにフリマ等でのリセールが増える。 ・行政が実施するイベントではＰＲ方法も課題となるが、TikTok、インスタ等の活用方法は若い人や学生が詳しいので、得意な分野で協力可能。 ・ごみと思わず、新たな価値観を見出してもらうことを重要視している。 ・古着というと、誰かが着古したものと嫌われることもあるが、新たなタグをつける、古本であればブックカバーを学生がデザインする、学生が出店している等といった付加価値をつけて販売する。 ・行政が実施しているＨＰ、掲示板、ポスターの作成等、学生とコラボして実施するということができれば面白いものが作成可能。 ・行政にすべて任せるのではなく、学生の知識、行動力、つながりを活用してほしい。
	61	「リサイクルの大々的な宣伝」 ・食品ロス、おもちゃ、古着等の再利用が必要。 ・古紙のリサイクルのため、ショッピングモールに回収ボックスを設置する。 ・古紙回収の促進のため、宣伝（周知）が必要。より広く周知するため、例えば宇治市であれば京都大作戦、市出身の著名人とタイアップし、リサイクルの大切さを発信する。 ・立命館宇治高校では中学高校で制服が変わるため、そのタイミングで制服のリセールを購買等で実施する。売る側には収入があり、買う側には安く買えるというメリットがある。
	62	「ショッピングモールの活用」 ・住民はごみの分別カレンダーにより分別を行うが、分別についてあまり意識ができていない世帯がある。 ・ごみを分別しない人の心理状況としては、自分にとってのメリットがない、めんどくさいということが要因。 ・分別を意識してもらえるよう子供から高齢者までどうやってアプローチするか考えた場合、子供⇔大人⇔高齢者を一体とした多世代交流のサイクルを生成することが必要。 ・多世代交流のサイクルをまわすため、多世代が参加できるイベントの企画を行う。イベント参加には、参加者のメリット創出、参加のためのハードルを下げることが必要。 ・まず参加のためのハードルを下げるため、ショッピングモールでイベント開催する。ショッピングモールで開催するメリットは、親子世代が買い物ついでに参加できるということが、参加のハードルが下がる大きなメリット。さらに、ごみ問題だけのイベントを行政単独で開催するより、様々な世代に多く参加してもらいやすいショッピングモールでの開催が重要。

		・次に、参加者のメリットを高めることについて。人は自分にメリットがないとなかなか行動してくれない。だから、イベントに参加することによるメリットとして、農家とタイアップし野菜をもらえる参加賞を用意する。親子世代にとっても野菜をもらえるのは大きなメリット。 ・子供にとっての学びやメリットとしても、ごみ問題を自由研究のテーマにできる等のプロモーションも可能。 ・農家とタイアップするメリットとして、生ごみの減らし方、食べきりレシピ等、先人の知恵を継承する高齢者から子供世代への多世代交流の機会を創出する。 ・ごみ問題だけに着目するのではなく、温かい社会の構築、多世代交流の推進といった視点で、地域全体で一緒にごみ問題に取り組んでいける雰囲気づくりを行う。
その他	63	事業活動に伴って排出される事業系一般廃棄物に対しても厳しいごみ減量義務化を検討すべき
	64	将来的に埋立地（最終処分場）の確保が困難なことから、埋立ごみゼロを目指す
	65	食品トレーはスーパーに設置されているリサイクル BOX に持っていくと、家庭ゴミが減り、食品トレーのリサイクルにも繋がるので一石二鳥になる。回収に際してスタンプカードなどが押されて、商品やスーパーのポイントに交換できるなどの周知が広がればいい。
	66	商品は販売されている現物でなく、試供品のようなものでも企業にとって商品を知ってもらえるチャンスになる
	67	京滋バイパスの出入口の植込みに投げ捨てられた缶・ペットボトル・袋類が散らかっています。信号待ちの時に届くものは家に数個ですが持ち帰ったりします。植込みが手入れされないと見えないのでよけいに不届き者がいるのかと思います。 芝生にしてごみが捨てにくい情景にしてはどうかと思ったりします。私の勝手なお願いです。子供のころから環境美化について教育してほしいです。
	68	サークルで、物品等工作してアートの作品として紅花とコラボすると、使い道いろいろあり大変面白い。生花展等最近はアートと上手に組み合わせしていてグッドアイデアと思う。
	69	八幡市では月の第５週には資源ごみの回収がない。その日に衣類や古布を回収して欲しい。効果…回収した衣類や古布をリサイクルや売却することができればごみの減量につながる。
	70	スーパーで買った商品をバックに入れる時に、ビニール袋をたくさん持って帰る人がいる。必要な分だけ使えるようにお肉やお魚売り場など袋を使うところにだけ設置しておくと、必要な分だけビニール袋を使うようになると思う。お会計の後の袋詰めの場所も混まなくなって良いと思います。
経済的手法	71	ごみ分別、減量について周知しても行動変容（協力）してもらうには経済的手法が必要
	72	住民にごみ分別、減量に協力してもらうにはごみ袋有料化が有効
	73	ごみ袋の有料化については、京都市などの例を見ると反対。不法投棄が増え、スーパー、生協のごみ箱にトレーやラップがあふれ、ごみ出しに使用できる透明袋を（有料化して指定袋となれば）ごみとして出すことにより、かえってごみが増えることになる。
	74	家庭から排出されるごみについてはごみ袋の有料化を行う。また事業系廃棄物については家庭系よりも処理手数料を高く設定する。家庭系ごみだけではなく、事業系ごみの減量も必要
	75	レジ袋有料化によりマイバックの普及率が上がったようにごみ袋有料化が有効であると考えます。

出典：第１回循環型社会推進会議（令和６年８月２１日）

循環型社会推進会議意見交換ワークショップ（令和６年１１月２日）

ごみ減量アイデア募集（エコネット城南令和６年７月号）

ごみ減量アイデア募集（エコネット城南こども特集号令和６年７月号）

別添資料１

出された意見に対する組合の考え方

１　紙ごみ

- 古紙、雑がみについての情報が住民の皆さまに十分届いていないという課題があるものと考えています。市町と協働して雑がみについての正確な情報提供に努めます。
- 市町で実施されている自治会・町内会活動を通しての古紙回収や古紙回収事業者の回収ステーションなどの情報提供に努めるほか、組合と市町が協働し雑がみの取扱いを検討します。
- 紙の再利用の取組については、管内住民の皆さまの参考としていただくため、組合ホームページの「わたしこんなことやっています」のページに掲載させていただきます。

２　生ごみ

- コンポスト及び生ごみ処理機の普及は生ごみ減量に有効な施策の一つであると考えています。また、コンポストにより発生するたい肥の使途に困っているというお声もいただいており、生ごみを分解してもたい肥が発生しない「キエーロ」についても、生ごみ減量に有効な施策の一つとして周知啓発してまいります。
- 組合ではホームページでエコクッキングの情報提供を行っており、テレビ番組の中で取り上げられたことがあります。今後もエコクッキングをはじめ皆さまから工夫されている情報をご提供いただき、管内住民の皆さまに情報提供を進めます。
- 生ごみ減量化の取組については、管内住民の皆さまの参考としていただくため、組合ホームページの「わたしこんなことやっています」のページに掲載させていただきます。

３　プラごみ

- 脱炭素社会に向けての CO_2 削減のためにはプラスチックを焼却しないことが重要ですので、引き続き、確実にリサイクルができる分別の取組をお願いします。
- プラスチック製容器包装とプラスチック製品一緒に回収する「プラの一括回収」を検討します。（令和８年度導入に向け協議中）

４　周知啓発

- 組合及び市町の広報紙、ホームページ、環境イベントの開催等既存の広報啓発方法に加え、市町と協働して新たな広報の方法を検討します。
- 市町では廃棄物担当部局が小学校を巡回して環境美化教育を実施されているところもあり、実施されていない市町への情報提供を進めるとともに、組合では出前講座開催

のご要望にはすべてお応えしております(令和 5 年度実績 18 回)ので、ご要望をお待ちしております。

- 企業による製品回収には新たな法律や改正が必要なものもあり、市町から国等に要望することを検討していただきます。また、その他の情報発信につきましても、市町と協働で取組を検討します。
- 各市町で分別方法が異なることについては、ごみ排出時のわかりやすさを重視し、名称や分別区分の統一について検討します。
- 住民の皆さまに情報拡散していただけるSNSの活用を含め、また、住民の皆さまにお越しいただけるよう、魅力的な環境イベントの開催、「環境ふれあいひろば」の充実に努めます。
- 市町では明らかに分別できていないごみ袋は収集していませんが、どうすれば分別にご協力いただけるのかを検討し、行動変容していただけるような方策を市町との協働で検討します。
- 間違った分別、分かりにくい分別等について、きめ細かな情報提供を市町と協働して進めます。
- ごみ減量につながるリユース事業は重要と考えており、幅広い住民の皆さまに利用いただけるよう、「環境ふれあいひろば」にリユースコーナーを設けるとともに、㈱ジモティーと連携しリユース活動の促進にも取り組んでいるところです。さらに充実を目指します。
- ごみ減量を進めるためにはリサイクル（資源化）率の向上が大きく寄与することとなりますので、資源化を進めるため、分別の啓発をはじめ新たな資源回収を市町と協働して検討します。

５ 減量各種アイデア

- ごみ減量に有効な取組を管内住民の皆さまの参考としていただくため、組合ホームページの「わたしこんなことやっています」のページに掲載させていただきます。
- 市町で回収し当組合に持ち込まれたアルミ缶などの資源ごみについては、入札により売却させていただき、得られた収入は組合の運営に充てられ、結果、その収入分は市町の分担金が減ることになります。
- かえっこバザールについては、「eco っと宇治」さんのご協力のもと、今後も当組合環境イベントとして実施する予定にしています。
- ごみ処理にかかる経費については、組合の広報紙やホームページなどでお知らせします。また、ごみ減量と経費の関係につきましても、シュミレーションする必要があると考えています。
- 断捨離等で不要となっている物品については、「環境ふれあいひろば」のリユースコーナーで対応できるよう検討を進めます。

- 学校の学習補助品等については、教育現場でのリユースが進むよう、市町から教育委員会に働きかけを検討していただきます。
- 売り手の責任を高めることについては、企業による製品回収には新たな法律や改正が必要なものもあり、市町から国等に要望することを検討していただきます。
- リペアについては「環境ふれあいひろば」の工房機能として研究します。

６ その他

- 事業系ごみの減量化については、排出事業者に協力いただけるよう、周知・啓発に努めます。
- 最終処分場には限りがあります。まずは、ごみ減量に積極的に取り組む必要があると考えています。
- 食品トレーについては、市町と協働で食品トレーの回収を実施しているスーパーマーケット等の情報提供に努めます。
- 市町においては、エコアクションポイント事業により、環境にやさしい取組に対しポイントの付与が行われているところがありますので、その拡充を求めていきます。
- アートとのコラボについては、「環境ふれあいひろば」玄関にはそのシンボルとして廃棄物アートを展示しています。市町でも廃棄物アートの作品募集によりごみ減量に取り組まれた事例があります。
- 組合では、アートの視点を取り入れるなど、楽しみながら環境を学べる「環境ふれあいひろば」にしていきたいと考えています。
- 衣服や古布の回収方法や資源化については市町と協働して検討します。

７ 経済的手法

- 経済的手法が有効であることは先行事例がありますが、住民の皆さまにご負担を強いることになります。
- まずは市町、住民の皆さまとごみ減量に取り組みたいと考えています。
- ごみの不法投棄については、他の自治体でごみ袋有料化の導入により不法投棄が増えたという事例は見受けられませんが、市町のパトロール強化や啓発活動などにより抑制を図る必要があると考えています。

別添資料２

【既存の取組事例】具体的な減量施策の検討について（意見取りまとめ）

区分	内　容	利　点	課　題	・提言に盛り込むべき施策かどうか ・継続して取り組むべき取組かどうか ・継続して取り組む場合、改善が必要な点はないかどうか
紙ごみ	子供会、自治会、婦人会等による古紙回収	・定期的に古紙がリサイクルされる機会となる ・自治会等に市町からの報奨金が入る	・自治会等に未加入の人は参加できない ・雑がみ回収可能か住民に周知が届いていない ・そもそも雑がみとは何か住民が分かっていない	・同意見６人自治会、女性の会等未加入の方も自治会回収の対象に ・同意見２人雑がみとは何か、動画や写真で具体的な例で仕分け方法を視覚的に説明する方法が必要 ・自治会等への未加入者については、紙回収ステーション等で補完 ・取り組むべきだが地域（自治会）での担い手不足も心配 ・環境保全としての意識づけが大切 ・エコステーションの拡大が必要 ・回収可能な対象範囲を絵図等で明示（掲示、回覧等） ※京都市ごみ半減目標のための「しまつのこころ条例」では、雑がみの例や回収対象外を絵図で示している。 枚方市では古紙、段ボール、雑がみは市が回収しており、シュレッダーごみも写真、絵図で説明 提言に盛り込むべき：５人
	市のごみの出し方によると、可燃ごみで紙くずを出してよいとなっている。	・紙くずは生活上よく出てくるので、可燃ごみに入れるのであれば住民は排出しやすい。	・名刺大以上の雑がみは古紙回収でリサイクル可能と周知が行き届いていない。 ・可燃ごみとして出せるのは、汚れた紙ごみとしてはどうか	・同意見２人雑がみがリサイクル可能であるとの周知徹底（広報等で周知） ・雑がみとは何か、動画や写真で具体的な例で仕分け方法を視覚的に説明する方法が必要 ・「可燃ごみ」→「燃やすごみ」、雑がみは「資源ごみ」に周知徹底 ・ごみ扱いにするのか、リサイクルにするのか区別の周知が必要 ・可燃ごみとして出せる例を示す（キッチンペーパー、ティッシュ等） ・すぐに古紙回収することはなじまないので、周知徹底を優先すべき ・改善が必要。可燃ごみに紙くず不可、資源物とする
	資源分別の啓発	・市町イベント、ホームページ、広報紙等による周知啓発を実施	・一方通行の周知のため住民が理解しているか確認できない→第１回会議で住民が知らないことが多いという意見があった	・同意見２人啓発の仕方の工夫、啓発はもっと必要 ・改めて知らないことがあった。広報紙はみなさん読んでいる ・分別ルールの簡素化と徹底 ・資源分別については、公共施設、学校、幼稚園等でも意識を広める取り組みをしてはどうか 行政が各自治会に説明、講演会を開催し周知する等 ・市民体験型または親子で取り組めるイベント実施を検討してはどうか ・新たに有効な手法を取り入れて実施 提言に盛り込むべき：２人
生ごみ	コンポスト・生ごみ処理機等の導入補助制度	・可燃ごみに含まれる生ごみの減量が見込める	・全市町で補助制度が導入されていない ・補助制度がある市町でも一定購入費の住民負担が必要	・同意見２人製品等の紹介、補助制度の拡充、周知 ・段ボールコンポストの普及 ・近隣への配慮が必要で、なかなか勇気が出ない ・コンポスト利用者に対する経済的メリット。例えばたい肥量に応じたポイント付与 ・処理に手間取るからなかなか広がらないが、継続して周知をしていく必要 ・財政的問題もあり、全市町での導入は課題がある。まずは効果の共有を図るべき。 ・３市３町共通の制度で実施すべき ・各家庭でコンポストや生ごみ処理機の設置スペースが確保できないことも考慮する必要
	食べきりをテーマにしたイベント実施	・市町イベントとして広く周知可能	・全市町で実施できていない ・興味がある住民にしかイベントに参加してもらえない	・落ち葉コンポスト等で焼き芋等の楽しいイベント ・食材すべて使い切りと言われるが、なかなか日常生活では難しい ・高齢者世帯への周知→老人会での出前講座 ・全市町での取り組みが可能ではないか。 提言に盛り込むべき：２人
	食品ロス削減取組の実施（フードドライブ、フードバンク含）	・市町イベントとして広く周知可能	・全市町で実施できていない ・興味がある住民にしかイベントに参加してもらえない	・アプリでスーパーやコンビニ弁当等の割引販売の宣伝支援 ・主婦が多い女性の会等の事業の中で開催したい ・対象となる分野が分かりにくい。飲食業？食品小売業？家庭？ ・防災学習会等、様々なイベントで実施、啓発 ・フードドライブ、フードバンクなど、人目につきやすい場所で回収実施する ・将来につながることなので継続して周知をしていくべき 提言に盛り込むべき：２人

	エコクッキング、食べきりレシピ等の紹介	・食品ロス削減について周知できる	・全住民に情報が行き届いていない	・食べきりレシピ等を市町に常設していつでも手に入るようにする ・大阪ガスとのコラボ ・主婦が多い女性の会等の事業の中で開催したい ・将来につながることなので継続して周知をしていくべき 提言に盛り込むべき：２人
プラごみ	プラスチック製容器包装の分別回収	・リサイクル率の向上が見込める	・処理困難物の混入等が課題	・分別の徹底 ・混入するものの問題点の広報 ・処理困難物とは？→周知不足 ・インセンティブの付与。容器を分別するごとのポイント付与 ・「プラマーク」の有無の違いが不明 ・食品トレーの分別回収についてもペットボトルと同じにしてほしい ・リサイクル率が上がっていると思うが、もっと徹底的に処理できるように周知は続けていけばいい 提言に盛り込むべき：２人
その他減量施策	環境ふれあいひろばにおける不用品リユース	・捨ててしまうとごみになるが、必要な人にリユース（使用）してもらえる。	・引き取れる不用品の種類に制限がある ・品数、来客数が大手リサイクルショップと比べると少ない	・ポイント（地域通貨）によって購入できるようにし、現金でなくてもよい方法の検討 ・開催回数を増やす？→詳細が知られておらず周知不足 ・民間との住み分けも必要 ・環境ふれあいひろばを知ってもらう手立てがいる ・不用品、服など回収する場所があれば集めやすい。フリーマーケットなど ・周知が必要。よい取組であることから、住民理解を得やすい。 提言に盛り込むべき：２人
周知啓発	市町イベント、ＳＮＳ、ホームページ、広報紙等による周知啓発の実施	・幅広く情報を届けることが出来る	・全住民に情報が行き届いていない ・ＳＮＳをうまく活用できていない ・一方通行の周知のため住民が理解しているか確認できない→第１回推進会議で住民が知らないことが多いという意見があった	・同意見２人 SNS 媒体の活用、SNS は必要 ・住民の広報紙への企画参加（市民目線で） ・各市町広報に「環境ごみ分別」コーナーを毎月入れ、環境、ごみ問題の啓発を徹底する ・紙を減らすために紙（広報紙）を使うのに抵抗がある。 ・地域ごとに説明会等を実施する 提言に盛り込むべき：３人
	分別回収の実施	・ごみの適正な分別が図れる	・市町で分別方法が異なるため、分かりにくい ・３市３町でごみ分別区分及びごみ辞典等の統一が困難 ・分別方法について、住民に細かく知れ渡っていない	・同意見２人統一化を図るべき ・意識がある方と、ない方の差が大きい ・住民には分別一覧表がカラーで配布されている 提言に盛り込むべき：３人
	地域情報サイト「ジモティー」との連携	・不要なもののリユースが進み減量が見込める	・「ジモティー」１社としか連携できていない	・減量が見込めるのであれば、１社だけでもよい ・他市でも好事例があることから継続すべき 提言に盛り込むべき：２人
	行政が運営するリユースコーナーや資源物回収イベント等の開催	・不要なもののリユースが進み減量が見込める	・組合が実施する環境ふれあいひろばは、周知が広がっておらず、来庁者が増えていない。	・企業の参加による試供品（販促品）を配布すれば市民は来る ・目立つ広報の作成 ・ターゲット層に合わせた企画の開催。例えば、家庭、若者、高齢者向け等 ・地理的に交通の便から送迎バスの運行 ・小中学校の環境学習のコースに入れる ・身近なところでイベント開催になれば、周知が広がる ・広報紙で周知する。 ・市民との協働で推進 提言に盛り込むべき：３人
	環境美化について教育の機会を増やすため、出前講座の開催が必要	・住民に対し、直接啓発することが出来る	・管内人口に対し、開催頻度が低い。（組合実施分：令和５年度実績 18 回）	・出前講座の発信不足。広報、HP、申込用紙等を各市町の各施設に配架 ・出前講座の開催をする必要は大いにある ・組合と市町が連携して行うのが良いのではないか ・３市３町の担当部署がそれぞれの自治体で行っていくことの方が重要
	【委員追加】バザー開催について			・わが地域では、コロナ前には年１回学区単位でバザーを開催、多くの方が来てくださり、各家庭の不用品を展示、安値で販売できていたが、コロナ後は開催できていない。 その後５月（毎年）にふれあいまつりとして飲食とともに、（育友会協力のもと）小さくなった子供服を集めていただき、持ち帰っていただくコーナーを作りましたが、あまり品が多く後の処理が大変でした。

経済的手法	エコポイント制度の導入	・環境啓発に関連付けて取組を進めることができる。	・全市町で導入ができていない。	・同意見２人全市町でエコポイントの導入が必要 ・提言に盛り込み、意識向上を図る。エコポイントについては協力が得られると思う ・導入は不要

別添資料２

【他自治体で実施されている先進取組事例（※組合管内では未実施）】具体的な減量施策の検討について（意見取りまとめ）

	内　容	利　点	課　題	・提言に盛り込むべき施策かどうか ・他自治体の実施する取り組み事例を参考に取り組む場合、改善が必要な点はないかどうか
紙ごみ	雑がみリサイクルの実施。 具体的には次のようなパターンが想定される ①行政による雑がみ回収 ②古紙回収で雑がみを一括して回収 ③民間企業設置の資源回収拠点で古紙と一括して回収	・可燃ごみとして焼却されている雑がみのリサイクルが進む ・周知が行き届けば可燃ごみに混入している紙ごみの減量が見込める	・そもそも雑がみとは何か住民が分かっていない ・市町による雑がみについての周知が必要 ・①行政による雑がみ回収の実施には新たな分別品目の見直し及び回収コストが必要	・京都市が条例改正をした時、雑がみ等紙の削減に力を入れた。雑がみの周知とともに（ルール違反の場合）収集しないことも検討が必要 ・地域の皆さまは古紙回収時一緒に出されていると思います。 ・公民館、集会所に雑がみ、古本、回収 BOX 設置。回収場所に雑がみについて掲示し周知 ・雑がみについて周知し、②③の回収方法も加えて実施すべき 提言に盛り込むべき：２人
	民間事業者による資源回収場所（資源物回収マップ）の市町ホームページ掲載 ※雑がみ回収の可否についても記載	・住民の古紙及び雑がみ排出機会が日時を問わず可能になる ・周知が行き届けば可燃ごみに混入している紙ごみ及び雑がみの減量が見込める	・民間事業者リストアップに業者の賛同を得られるか。	・同意見２人回収マップの作成。ワークショップ、広報掲載 ・紙回収ステーションの設置とマップアプリ ・民間事業者への益々の声掛けは必要 ・最近、民間回収拠点が増えているので、リサイクル率の向上や便利さの提供につながるので、協力体制の構築は必要と思う ・自治会、子供会等で回収している場合が多いと思うので、周知も実施してもらえるよう呼びかける ・民間事業者への協力は得られるようにすればよいが、提言には入れなくてもよいのでは
	シュレッダーごみのリサイクル	・事業者が排出する機密文書の減量、可燃ごみとして出されているシュレッダーごみの減量が見込める	・シュレッダーごみを受け入れ可能なリサイクル業者について情報がない ・雑がみリサイクルとあわせて周知する必要がある	・リサイクル業者のリストアップと広報 ・各回のお知らせ（古紙回収にあたって）にも入れてみてはどうか ・シュレッダーごみリサイクル取り組むべき ・シュレッダーごみは体積が増え保管が大変なので、工夫が必要 ・シュレッダーごみに関する情報周知 ・事業者に協力依頼をするとともに、ごみに対する意識を高めてもらう ・受け入れ可能業者があるなら実施すべき ・個人情報の関係でシュレッダーごみはよく出るため、回収可能な業者を確保するべき
生ごみ	食材、食品の「適量購入」、食材の「使いきり」、料理の「食べきり」、調理時の「適切除去」	・食品残渣の発生抑制に取り組むことが出来る	・飲食店、スーパー等の民間事業者の協力が必要	・分別排出についてインセンティブを与える 【可燃ごみに水分多い→燃えない（プラ、紙分別でさらに燃えない）→灯油増（補助燃焼）→水切り重要】 ・そう思う ・オランダ、イギリスのように包装無し食品やマイ容器持参 提言に盛り込むべき：３人
	生ごみを分解してもたい肥が発生しない「キエーロ」等の普及拡大	・コンポストと違い、たい肥が発生しない ・可燃ごみに含まれる生ごみの減量が見込める	・「キエーロ」の認知度が低く、周知が必要	・マンション住民には利便性ある ・手作り可能、ワークショップ、手作り教室の開催 ・周知優先すべき ・実証実験を行ったうえで、虫や効果など課題がなければ実施してもよい
	水切り器の配布	・生ごみの水切りにより可燃ごみの減量が見込める。	・水切りが手間となるため、住民の協力を得るのが大変	・広報（有料化等で水を切らないと損をすることの広報） ・協力受けるのは大変 ・生ごみの水切り重要 ・意識啓発と情報提供のアプローチ（資源ごみと同じように水切りを習慣づける） ・周知啓発、出前講座、ワークショップの実施 ・水切り効果がよくわからない ・啓発のために配布すれば一時的な効果は見込めるが、継続性に課題
	多岐にわたる食品ロス削減への取り組みを推進するための、教育や福祉分野等関連部局との連携	・環境（廃棄物）の視点以外からのアプローチが可能	・幅広い利害関係者との連携が必要	・学校の調理実習等で子供達にも周知する ・コミュニティ冷蔵庫やコミュニティパントリーの実験→社会的弱者支援 提言に盛り込むべき：２人
	【委員追加】生ごみのたい肥化、メタン発酵発電等、生ごみ分別回収			・コスト面など幅広い検討が必要

別添資料２

プラごみ	プラスチック一括回収実施 ※城南衛生管理組合でも令和８年度導入に向け協議中	・不燃ごみで処理しているプラスチックの資源化が可能	・分別区分の変更に伴い住民への周知が必要	・住民への周知徹底 ・製品プラの種類は多いため、分別の啓発が必要 ・各地区出前講座の開催徹底 提言に盛り込むべき：２人
	ワンユースで利用されるプラスチックの削減	・幅広い利害関係者との連携が必要	・幅広い利害関係者との連携が必要 ・生産者責任	・スーパーやコンビニへの徹底（竹等代替素材） ・理想的だが、実施するにはハードルが高い ・啓発のみ
	【委員追加】 分別の方法について			・わかりやすい分別方法の啓発
その他減量施策	（例）祇園祭ごみゼロ大作戦	・リユース食器の使用、資源分別活動の実施により、祭り等のイベント開催時、来場者数に比例して課題となる廃棄物を減量する。 ・ごみ減量について住民周知する機会となる	・活動が浸透するまで時間が必要となる。 ・事業運営を多数のボランティアに頼らざるを得ない現状がある。	・レストランでの「ドギーバック」の利用（国のガイドラインあり） ・自己責任での持ち帰り ・Refill による販売促進 ・マイカップ運動 ・イベントには向いている ・参加者、住民の意識向上に努める。都度声掛けする。 ・実施していくべき
	大型家具のリユース事業 ①地域情報サイト「ジモティー」等各種フリマサイトとの連携 ②リユースショップの活用 ③住民持ち込み大型ごみからピックアップ	・捨ててしまうとごみになるが、必要な人にリユース（使用）してもらえる。		・リペアカフェを設置して、そこでの事業として検討 ・効果的であり、拡大が望まれるが、行政が主体的に行うことは難しい ・取り組んだ方が良いとは思うが、提言に盛り込むべきかは他委員の意見も聞くべき ・実施していくべき ・大型ごみは行政回収（有料）を実施する
	【委員追加】マイバック、マイボトル持参			マイバック、マイボトル推進
	【委員追加】啓発のための広報、発信事項			・税金の無駄＝住民の生活向上 ・地球温暖化防止 ・毎月のごみ処理費用総額と住民１人当たりの金額表示 ・京都府内他自治体との比較、京都市との比較、平均値、ランク等、各市町広報及びエコネット城南に掲載
周知啓発	市町で分別方法が異なる。		・周知がややこしい ・組合が一括して周知に取り組む場合、分別方法の統一が必要	・同意見３人統一が望ましい ・市町で統一に向け話し合いをすべき ・市町毎に異なるというのが問題なのかというところだが、せめて城南衛管では統一が必要では ・分別にかかる周知はもっと必要 提言に盛り込むべき：２人
	「子供用品のリユース」 ・教育機関を活用した子供用品全般のリユース事業 ・子供用品が必要な時に新品を購入するというのも一つの方法だが、おさがりを活用することがごみ減量の一つとして検討できる。 ・おさがりに抵抗がある人も多いが、子供に対してリユースについて教育すれば、親の意識も変わっていく可能性がある。 ・教育機関が主体となって交換できる場を提供できれば、フリマ等にわざわざ出かけることなくリユース品を探すことが可能。	・不要なもののリユースが進み減量が見込める	・制服リユースの場合、学校単位での実施 ・大規模なイベントになると、開催に多額の費用が必要 ・開催に適切な場所がない	・まだ実施されていない学校もあるが、制服リユースは大いに賛成。卒業後に回収できると入学までに間に合う上、制服は高額なため利用できる人の一助となる。 ・あわせておもちゃや幼児服のリユース促進 ・まずは、大学、学校、企業などで主体的に取り組めばどうか ・制服リユースは無駄にならず、とてもいい活動になる、経済的にもよい。 ・制服リユースのニーズは高い。地域に根差した取り組みが必要 ・民間（住民）主体の取組みとして行うもの

	「リセールの行政支援」 ・フリマ出店経験からリセールに着目。 ・フリマ出店した際出店料が必要となるが利益が少なくなるため、学生が求めているのは、行政が場所提供、出店料補助、什器貸出をやってもらえればさらにフリマ等でのリセールが増える。 ・行政が実施するイベントではＰＲ方法も課題となるが、TikTok、インスタ等の活用方法は若い人や学生が詳しいので、得意な分野で協力可能。 ・ごみと思わず、新たな価値観を見出してもらうことを重要視している。 ・古着というと、誰かが着古したものと嫌われることもあるが、新たなタグをつける、古本であればブックカバーを学生がデザインする、学生が出店している等といった付加価値をつけて販売する。 ・行政が実施しているＨＰ、掲示板、ポスターの作成等、学生とコラボして実施するということができれば面白いものが作成可能。 ・行政にすべて任せるのではなく、学生の知識、行動力、つながりを活用してほしい。	・不要なもののリユースが進み減量が見込める	・大規模なイベントになると、開催に多額の費用が必要 ・開催に適切な場所がない ・行政による開催支援が必要（学生）	・場所の確保と定期化（月１回）イベント化 ・京都にある大学に呼びかければどうか（特に環境系学部のある大学教員や事務局に） ・産業まつり、商工会まつり、文化祭等のイベントに参加可能となれば場所は無料で提供することも可能。 ・学校の体育館等借りて開催 ・提言に盛り込むことには消極的 ・民間（住民）主体の取組みとして行うもの
	「リサイクルの大々的な宣伝」 ・食品ロス、おもちゃ、古着等の再利用が必要。 ・古紙のリサイクルのため、ショッピングモールに回収ボックスを設置する。 ・古紙回収の促進のため、宣伝（周知）が必要。より広く周知するため、例えば宇治市であれば京都大作戦、市出身の著名人とタイアップし、リサイクルの大切さを発信する。 ・立命館宇治高校では中学高校で制服が変わるため、そのタイミングで制服のリセールを購買等で実施する。売る側には収入があり、買う側には安く買えるというメリットがある。	・不要なもののリユースが進み減量が見込める	・制服リユースの場合、学校単位での実施 ・大規模なイベントになると、開催に多額の費用が必要 ・開催に適切な場所がない →環境ふれあい広場の活用	・文教大学の卒業時の引越しで荷物（不用品）の活用を大学に求める ・制服は学校単位が良いのでは。入学前のサイズ測定の時のタイミングがとても良いと思う ・民間（住民）主体の取組みとして行うもの
	「ショッピングモールの活用」 ・住民はごみの分別カレンダーにより分別を行うが、分別についてあまり意識ができていない世帯がある。 ・ごみを分別しない人の心理状況としては、自分にとってのメリットがない、めんどくさいということが要因。 ・分別を意識してもらえるよう子供から高齢者までどうやってアプローチするか考えた場合、子供⇔大人⇔高齢	・ごみ問題だけではなく、多世代交流が図れる。 ・行政と学生がコラボすることにより、それぞれの得意分野を生かすことが出来る。 →学生：SNS、企画運営 行政：開催場所提供	・大規模なイベントになると、開催に多額の費用が必要 ・開催に適切な場所がない →環境ふれあい広場の活用 ・行政による開催支援が必要（学生）	・ＤＩＹで作ったアップサイクル品の販売も検討 ・ポイント（地域通貨）の活用 ・保育、幼稚園で「ごみ分別」ゲームを実施しており、年１回だが園児は記憶している。幼稚園から中学まで環境教育にごみ分別を必須として取り入れる。食育も同様に、給食の残材、食べ残しの活用を農業や再エネに利用促進を図る。 ・ごみの分別に関しては、子供の時から習慣づけることが重要。学校の調理実習（家庭科授業）において、食品ロスやごみ分別をしっかり教育。大人に対しても、料理教室等で徹底して意識づけ。「もったいない」精神が普通になるといい。 ・最近マルシェが多く開催されているが、イベント開催にごみはつきものなので、主催者にごみ減量を意識してもらうことが良いのではないか。

	者を一体とした多世代交流のサイクルを生成することが必要。 ・多世代交流のサイクルをまわすため、多世代が参加できるイベントの企画を行う。イベント参加には、参加者のメリット創出、参加のためのハードルを下げることが必要。 ・まず参加のためのハードルを下げるため、ショッピングモールでイベント開催する。ショッピングモールで開催するメリットは、親子世代が買い物ついでに参加できるということが、参加のハードルが下がる大きなメリット。さらに、ごみ問題だけのイベントを行政単独で開催するより、様々な世代に多く参加してもらいやすいショッピングモールでの開催が重要。 ・次に、参加者のメリットを高めることについて。人は自分にメリットがないとなかなか行動してくれない。だから、イベントに参加することによるメリットとして、農家とタイアップし野菜をもらえる参加賞を用意する。親子世代にとっても野菜をもらえるのは大きなメリット。 ・子供にとっての学びやメリットとしても、ごみ問題を自由研究のテーマにできる等のプロモーションも可能。 ・農家とタイアップするメリットとして、生ごみの減らし方、食べきりレシピ等、先人の知恵を継承する高齢者から子供世代への多世代交流の機会を創出する。 ・ごみ問題だけに着目するのではなく、温かい社会の構築、多世代交流の推進といった視点で、地域全体で一緒にごみ問題に取り組んでいける雰囲気づくりを行う。			・行政による開催支援は必要
	【委員追加】アップサイクルの関連イベントの開催			・アップサイクルで生まれたものの展示、販売、体験イベントの開催
	【委員追加】先進市町村の取組みについてのセミナー			・セミナー、講演会を開催し、管内での実施可能性を検討する
経済的手法	経済的インセンティブを活用	・他自治体の先進事例を見ても、ごみ減量が見込める	・導入にあたり生活保護世帯、子育て世帯等に対する減免措置等の検討が必要	・地域通貨のために幅広く活用（便利さを増すこと） ・ごみ袋の有料化 ・ごみ有料化により財源に充てる ・ごみ袋の有料化とあわせて導入を検討すべき ・有料化は市民生活（家計）に影響が大きく、まずは紙・プラで減量策を促進すべき ・有料化について、提言に明記されることは、現時点では反対
	共通エコポイント制度の導入	・３市３町共通ポイント制度であれば交換の利便性が増す。	・３市３町でエコポイント制度統一の検討が必要 ・全市町で導入が出来るのか、場合によっては個別にポイント制度導入の場合も。	・エコポイントの交換の原資創出 ・共通エコポイントは必要 ・全市町でエコポイント導入できていない状況で、共通化は早々ではないか。 ・不要。最初はめずらしく参加する人、事業者があると思うが、継続性に乏しい ・一部のコンビニでペットボトル１本回収に１ポイントもらえるところがある。わかりやすいポイント制にする必要がある。

別添資料３

	第１回までの意見	第２回での意見
紙ごみ	○子供会、自治会、婦人会に入ってない人へも古紙（雑がみ）回収に係る周知が必要 ○自治会未加入の家庭にも居住地域の自治会の古紙回収への協力呼びかけが必要 ○住民が古紙回収へ協力すること及び雑がみについて認知向上させることが必要 ○「ごみカレンダー」では、紙ごみも可燃ごみで出せるようになっているが、汚れた紙ごみと変えることが必要 ○古紙回収を子ども会が運営しているが、現状では雑がみを出している家はかなり少数なので、雑がみとはどんなものか周知が必要 ○雑がみの認知を上げるためエコネット城南で雑がみとはどういうものか今一度大々的に宣伝することが必要 ○自治会の古紙回収で、雑がみを出せる事を知らない人が多い。広報啓発が必要 ○「チラシ投函不要」のステッカーを配布しポスティングされる非常に多くの不要なチラシを減らす必要がある。 ○ホームセンターなどでの古紙回収ボックスの設置場所をマップで公開し、利用を呼びかける必要がある。 ○学校で配られたプリントの後ろの白紙部分で漢字の練習や筆算をして紙ごみを減らす必要がある。 ○使い切ったティッシュケースをごみ袋代わりにして、部屋ごとのごみ箱をいくつも買わない。	○自治会、女性の会等未加入の方も自治会回収の対象に。 ○雑がみとは何か、動画や写真で具体的な例で分別方法を詳細に情報発信すべき ○分別ルールの簡素化：シュレッダーした紙も再資源化することの検討 ○雑がみ、古紙回収拠点や民間回収拠点を示したマップアプリの導入 古紙・雑がみの分かり易い分別の啓発 回収拠点の場所や回収の仕組みの周知
生ごみ	○コンポスト・生ごみ処理機等の導入補助制度の拡充が必要 ○野菜の皮、大根、カブの葉など栄養があるが捨てられることが多い有効活用できる情報（栄養があって美味しく食べられること、食べきりレシピなど）を周知する必要がある。 ○生ごみは、庭・ベランダで乾燥させてから処分すればほぼ消滅することを周知する必要がある。 ○スイカを食べたあとの皮をそのままごみとして捨てるのではなく、必ず日に干して水分を抜いてから捨てることができることを周知する必要がある。 ○生ごみ・剪定枝や葉・雑草を一か所に集めて、精米所で無料でもらってきた米ぬかを入れ込むことで、生ごみ、枝、葉及び雑草が発酵し、家庭での園芸や野菜栽培においての無料の有効な肥料として活用できることを周知する必要がある。	○コンポスト・生ごみ処理機の普及 ○食べきりをテーマにした出前講座 ○フードドライブ取り組み店舗の周知 ○生ごみのたい肥化・メタン発酵等資源化 生ごみの水切り・食べきり・使い切りの３キリ運動の周知とコンポストなどを活用した減量の徹底

	○毎日使う麦茶などのティーバックはしっかり水を切ってから天日干しにし、剪定枝・葉は少し乾かしてから出す、スイカの皮はプランターの土の上に皮の方を上にして置くと、何日か経つと薄皮一枚になることなどを周知する必要がある。 ○生ごみの水分を減らすため、生ごみ処理機の購入補助も導入する必要がある。 ○お茶葉、コーヒーかす、再生用土、落ち葉等はコンポストを利用し処理できることを啓発する必要がある。 ○冷蔵庫内をチェック（消費期限など注意して必要なものだけを用意する。）、残った食材（野菜など）カレー料理に生かし、生ごみコンポストも活用できることを周知する必要がある。 ○紅茶の葉はポン酢と白ごまで和えて一品として使え、野菜も効率よく上手に使う工夫をし、野菜、果物の皮、たね等は、庭に埋め（米ぬかを少し加えたり）たりすると、もえるごみの日に出すごみの量がすごく減ることを周知する必要がある。 ○生ごみ処理機は高価であり、野菜くずを畑に埋め、学校のプリント、紙類は古紙回収に出すと結構減量化できることを周知する必要がある。 ○大根や人参等、皮ごと食べられる物は皮を剥かず、たわしでこすって調理しキャベツの芯や、白菜の芯も活用すればかなり減量できることを周知する必要がある。	
プラごみ	「プラごみの分別」 洗って乾かしたり、紙のシールを剥がしたり、プラ以外の部分を切り離したりしてプラごみに捨てられるものはプラごみに捨てることを周知する必要がある。 「プラマーク汚れていたらもえるごみ」 プラマークの分別に頭を痛めますが、家族にもわかるようにごみ箱のふたに貼るなど工夫することを周知する必要がある。	○プラごみの分別の仕方の具体的詳細の周知 ○プラごみの一括回収 ○プラごみ分別の周知啓発
周知啓発	○住民がごみを排出するにあたり分別意識を向上させる広報が必要 ○環境美化について教育の機会を増やすため、出前講座の開催が必要 ○ごみ排出時の分別を徹底させるために、市町と組合が協働して大々的に広報すべき ○企業による製品回収、集会所やスーパーでの情報発信強化が必要 ○市町で分別方法が異なるため、この機会に統一して周知をやりやすくしてはどうか ○ごみ分別、減量について住民参加型の周知活動が必要	○分別する人が得をする仕組みの検討 ○環境ふれあいひろばでのエコポイントの活用 ○環境ふれあいひろばの更なる周知 ○学校へのごみ減量出前講座 ○分別推進のためのエコポイントの活用

	○分別ができていないごみ袋は回収しないなど厳しい対応も必要 ○間違った分別で排出されている事例を啓発すべき ○アムステルダムの１０Ｒも先進事例として取り入れるべき ○布おむつの使用奨励、子供服のお下がり、市町規模のリサイクルシステム構築すべき。 ○リサイクル率向上をごみ減量の目標の一つとして掲げることを検討すべき。 ○小型家電が公民館で回収されていることを知り今まで迷わず燃えないごみに出していた小型家電を回収ボックスに持って行った。知らなくて燃えないごみにだしているひとも多いんじゃないかと思う。もっと周知できるように広報だけでなく集会所の掲示板やスーパーなどに掲示することを検討すべき ○よしずのスダレは「なぜもえないごみ」なのかわかりにくい。周知の工夫が必要。 ○ごみを減らすには何といっても私たち一人ひとりのごみを減らそうという意識が大事であり管理組合による出前講座を充実させるべき。(①テーマ：ごみを減らすことの大切さ　②場所：各町内にある集会所) ○説明会（セミナー）を開催も検討すべき ○選挙の投票日になると、同報系のスピーカー、広報車など様々な方法で投票が呼び掛けられるが、それと同じレベルでごみの分別を毎日呼び掛けることも検討すべき	
減量各種アイデア	「資源ごみの分別」 ○ネットで服を買った時についている大きめの紙袋に資源ごみをいれ、買い物の際に近くにある資源回収ステーションに持ち込む。また、最近は気温が上がり、生ごみの処理が大変になってきたので、使い古しのジップロックに生ごみを入れごみ出しの朝まで冷凍庫に保存しておくという取組など周知すべき。 ○アルミ缶のみの回収日を作り、回収後リサイクル業者に持っていってもらうことを検討すべき。 （現状は、集めたアルミ缶はリサイクルされ現金化され、お金は子供会費になっています。その日に出してない人はごみ収集の缶の日に出しています。いつも町内会で出したら良いのにと思っているのですが月一の回収で、手間もあり仕方ないと思っているのですが換金目当てでアルミ缶などを持って行く車を度々見かけます。正直知らない人のお金になるぐらいなら市で回収し費用は市に入ると財政も少し良くなるし、リサイクルされ環境にもいいのかと思います。	○ＳＮＳを活用した啓発 ○出前講座の実施 ○エコポイントを活用した啓発事業参加の促し

	○子供服はお下がりで貰ったり、譲ったりして減量化することを周知すべき。 ○オムツは紙オムツではなく布おむつを使用することを推奨すべき。 ○おもちゃのかえっこバザールをもっと周知すべき（先日初めておもちゃのかえっこバザールに参加し、お手伝いなどしてポイントを貯め、おもちゃを見てみるとまだまだ使えるおもちゃ達と交換し、子供が外出にも持って行ったりめちゃくちゃ使用しています。持って行ったおもちゃも帰宅時にはなくなっており誰かが貰ってくれたのがすごく嬉しかったです。家に帰宅後、おもちゃを減らすのを嫌がってた子でしたが次の持ち主に行く事が分かったので手放してくれるようになりました。もう少し認知されてもいい活動です。） ○かえっこバザール同様に子供服の交換会も期間限定でもいいので開催を検討すべき。（例えば 10 時から 11 時までお洋服回収。12 時から交換会開始。余った服は古紙回収に。） ○一度使ったティッシュのごみだけのごみ箱を作り再利用で食後のお皿の汚れを拭き取ったり、フライパンの油汚れを拭き取ってから洗うようにしていることなど周知すべき。 ○流し口のごみを拭き取ったり、お風呂場の排水溝の汚れを拭き取ったりして再利用していることを周知すべき。 ○ごみ処理に係る経費を具体的に示し、減量することで節約できる経費で、医療福祉、教育など市民生活を豊かにする分野にこれだけのお金を回すことができ、具体的にこんなことができると分かり易く周知すべき。 ○断捨離で不要になった物品を市町村規模でリサイクル、格安販売してもらえるシステムを充実させることを検討すべき。（不用品を個人搬入できたり、いつでも購入できたりするフリマ施設のようなものがあれば楽しい） ○学校の学習補助品（習字の道具、ピアニカ、リコーダーなどの楽器、理科実験道具）など共有して使えるように検討すべき。（個人購入の負担も期限される） ○売り手の責任を高めることを検討すべき。 ○ユニクロやニトリなどは不要になったものを企業単位として回収している。せめて売ったものは回収してリサイクルできる方法を確立させることを検討すべき。 ○特に、電気製品、布団などは捨てるのにも抵抗があり半永久的に修理、補修して使えるような製品を企業に作ってもらえる仕組みを検討すべき。	

	○過剰包装はしない、プラスチック製品での包装を極力控えるなど製造者に求めることを検討すべき。 （プラスチック製品での包装を極力減らすのは製造時にしないと個人ではできない） ○それ自体がごみである菓子袋や衣類の包装紙をごみ袋の代用で使用できることを周知すべき。 ○樹木の剪定くずをこの夏の乾燥対策として土の上に敷いていることも周知すべき。 ○着れなくなった服などを宇治市役所に持って行ったり、お母さんが、はかなくなったズボンで、カバンを作ったりできることを周知すべき。 ○子供の小さくなったジャージやズボンを切って、寝るときなどに、足につけて足が冷えないようにしたりできることを周知すべき。 ○教育機関を活用した子供用品全般のリユース事業を検討すべき。 ○子供用品が必要な時に新品を購入するというのも一つの方法だが、おさがりを活用することもごみ減量の方法の一つとして検討すべき。 ○おさがりに抵抗がある人も多いが、子供に対しリユースについて教育すれば、親の意識も変わっていく可能性があるので検討すべき。 ○教育機関が主体となって交換できる場を提供できれば、フリマ等にわざわざ出かけることなくリユース品を探すことが可能なので検討すべき。 ○壊れているものを直すということがリペアと思われがちだが、ビジネスとしては成り立ちにくい。リペアのメリットは材料費が安く済む。余った予算で新たな付加価値をつけて販売することができることを周知すべき。 ○家具の場合でも、足にクッションをつける等付加価値をつけて販売することが可能であることを周知すべき。 ○宇治であれば廃棄される宇治茶の使用済茶葉を、せっけんの香り付けに活用することなどを検討すべき。 ○フリマ出店経験からリセールに着目したが、フリマ出店した際出店料が必要となるが利益が少なくなるため、学生が求めているのは、行政が場所提供、出店料補助、什器貸出をやってもらえればさらにフリマ等でのリセールが増えるので検討すべき。 ○行政が実施するイベントではＰＲ方法も課題となるが、TikTok、インスタ等の活用方法は若い人や学生が詳しいので、得意な分野で協力可能なので検討すべき。	

	○ごみと思わず、新たな価値観を見出してもらうことを重要視すべき。 ○古着というと、誰かが着古したものと嫌われることもあるが、新たなタグをつける、古本であればブックカバーを学生がデザインする、学生が出店している等といった付加価値をつけて販売するなど工夫できることを周知すべき。 ○行政が実施しているＨＰ、掲示板、ポスターの作成等、学生とコラボして実施するということができれば面白いものが作成可能できるので検討すべき。 ○行政にすべて任せるのではなく、学生の知識、行動力、つながりを活用することも検討すべき。 ○食品ロス、おもちゃ、古着等の再利用が必要、古紙のリサイクルのため、ショッピングモールに回収ボックスを設置するなど検討すべき。 ○古紙回収の促進のため、宣伝（周知）が必要。より広く周知するため、例えば宇治市であれば京都大作戦、市出身の著名人とタイアップし、リサイクルの大切さを発信することなど検討すべき。 ○立命館宇治高校では中学高校で制服が変わるため、そのタイミングで制服のリセールを購買等で実施する。売る側には収入があり、買う側には安く買えるというメリットがあるのでこういった取り組みを広げることを検討すべき。 ○住民はごみの分別カレンダーにより分別を行うが、分別についてあまり意識ができていない世帯がある、ごみを分別しない人の心理状況としては、自分にとってのメリットがない、めんどくさいということが要因、分別を意識してもらえるよう子供から高齢者までどうやってアプローチするか考えた場合、子供⇔大人⇔高齢者を一体とした多世代交流のサイクルを生成することが必要であり、多世代交流のサイクルをまわすため、多世代が参加できるイベントの企画を行うことを検討すべき。 ○イベント参加には、参加者のメリット創出、参加のためのハードルを下げることが必要、まず参加のためのハードルを下げるため、ショッピングモールでイベント開催する。ショッピングモールで開催するメリットは、親子世代が買い物ついでに参加できるということが、参加のハードルが下がる大きなメリット。さらに、ごみ問題だけのイベントを行政単独で開催するより、様々な世代に多く参加してもらいやすいショッピングモールでの開催が重要、次に、参加者のメリットを高めることについて。人は自分にメリットがないとなかなか行動してくれない。だから、イベントに参加することによるメリットとして、農家とタイアップし野菜をもらえる参加賞を用意する。親子世代にとっても野菜をもらえるのは大きなメリットとなることなど検討すべき。	

	○子供にとっての学びやメリットとしても、ごみ問題を自由研究のテーマにできる等のプロモーションも可能なので検討すべき。 ○農家とタイアップするメリットとして、生ごみの減らし方、食べきりレシピ等、先人の知恵を継承する高齢者から子供世代への多世代交流の機会を創出することを検討すべき。 ○ごみ問題だけに着目するのではなく、温かい社会の構築、多世代交流の推進といった視点で、地域全体で一緒にごみ問題に取り組んでいける雰囲気づくりを行うことも検討すべき。	
その他	○事業活動に伴って排出される事業系一般廃棄物に対しても厳しいごみ減量義務化を検討すべき ○将来的に埋立地（最終処分場）の確保が困難なことから、埋立ごみゼロを目指すべき。 ○食品トレーはスーパーに設置されているリサイクル BOX に持っていくと、家庭ごみが減り、食品トレーのリサイクルにも繋がるので一石二鳥になる。回収に際してスタンプカードなどが押されて、商品やスーパーのポイントに交換できるなどの周知が広げることを検討すべき。 ○京滋バイパスの出入口の植込みに投げ捨てられた缶・ペットボトル・袋類が散らかっています。信号待ちの時に手の届くものは家に数個ですが持ち帰ったりします。植込みが手入れされないと見えないのでよけいに不届き者がいるのかと思います。芝生にしてごみが捨てにくい情景にしてはどうか検討すべき。 ○子供のころから環境美化について教育することを検討すべき。 ○サークルで、物品等工作してアートの作品として紅花とコラボすると、使い道いろいろあり大変面白い。生花展等最近はアートと上手に組み合わせしていてグッドアイデアと思うので検討すべき。 ○八幡市では月の第５週には資源ごみの回収がない。その日に衣類や古布を回収することを検討すべき。（効果…回収した衣類や古布をリサイクルや売却することができればごみの減量につながる。） ○スーパーで買った商品をバックに入れる時に、ビニール袋をたくさん持って帰る人がいるので必要な分だけ使えるようにお肉やお魚売り場など袋を使うところにだけ設置することなど奨励すべき。	
経済的手	○ごみ分別、減量について周知しても行動変容（協力）してもらうには経済的手法が必要 ○住民にごみ分別、減量に協力してもらうにはごみ袋有料化が有効 ○ごみ袋の有料化については、京都市などの例を見ると反対。不法投棄が増え、スーパー、生協のごみ箱にトレーやラップがあふれ、ごみ出しに使用できる透明袋を（有料化して指定袋となれば）ごみとし	○エコポイント制度の活用

法	て出すことにより、かえってごみが増えることになるので慎重にすべき。 〇家庭から排出されるごみについてはごみ袋の有料化を行う。また事業系廃棄物については家庭系よりも処理手数料を高く設定する。家庭系ごみだけではなく、事業系ごみの減量も必要 レジ袋有料化によりマイバックの普及率が上がったようにごみ袋有料化が有効であると考えます。	